

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、非製造業を中心に持ち直しの動きがみられる。

先行きについては、不透明感が残るものの、改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲73.0と、前期比で6.1ポイント増加し、4期ぶりに改善した。業種別では、製造業は7期連続で悪化し、非製造業は4期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きD Iは▲40.0と、前回調査比で15.9ポイント増加し、3期ぶりに改善した。
- 売上げD I及び資金繰りD Iは3期ぶりに改善した。
- 採算D Iは4期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は3期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和2年4～6月期、「当期」：令和2年7～9月期、「来期(先行き)」：令和2年10～12月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲73.0となり、4期ぶりに改善した。前期比で6.1ポイント増加し、前年同期比では33.3ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲83.4)は7期連続で悪化し、非製造業(▲64.8)は4期ぶりに改善した。

#### <景況感D Iの推移>

	当 期 (R2.7-9)	前 期 (R2.4-6)	前年同期 (R1.7-9)
全 体	▲73.0	▲79.1	▲39.6
製 造 業	▲83.4	▲79.8	▲45.8
非製造業	▲64.8	▲78.5	▲34.7

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は5.1%（前回調査(R2.4-6月)比+1.1）、「悪い方向に向かう」とみる企業は45.2%（前回調査比▲14.8）だった。

先行きD Iは▲40.0（前回調査比+15.9）と、3期ぶりに改善した。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R2.10-12)
全 体	5.1%	45.2%	▲40.0
製 造 業	6.9%	43.2%	▲36.3
非製造業	3.7%	46.7%	▲43.0

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲46.3（前期比+27.9）となり、3期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R2.7-9)	前 期 (R2.4-6)	前年同期 (R1.7-9)	来期見通し (R2.10-12)
全 体	▲46.3	▲74.2	▲22.7	▲31.4
製 造 業	▲51.4	▲73.7	▲23.5	▲25.1
非製造業	▲42.2	▲74.5	▲22.1	▲36.3

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲34.9（前期比+24.0）となり、3期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善し、非製造業は悪化する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R2.7-9)	前 期 (R2.4-6)	前年同期 (R1.7-9)	来期見通し (R2.10-12)
全 体	▲34.9	▲58.9	▲19.9	▲31.3
製 造 業	▲41.3	▲58.4	▲23.4	▲29.6
非製造業	▲29.8	▲59.2	▲17.0	▲32.6

## 4 採算について

採算D Iは▲49.1（前期比+21.3）となり、4期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに改善し、非製造業は3期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R2.7-9)	前 期 (R2.4-6)	前年同期 (R1.7-9)	来期見通し (R2.10-12)
全 体	▲49.1	▲70.4	▲27.2	▲35.8
製 造 業	▲53.4	▲68.9	▲28.9	▲29.5
非製造業	▲45.7	▲71.6	▲25.9	▲40.7

## 5 設備投資について

実施率は19.4%となり、3期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は4期ぶりに増加し、非製造業は3期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R2.7-9)	前 期 (R2.4-6)	前年同期 (R1.7-9)	来期見通し (R2.10-12)
全 体	19.4%	15.7%	22.9%	15.8%
製 造 業	21.2%	17.1%	27.0%	19.6%
非製造業	18.0%	14.6%	19.6%	12.9%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・機械の受注回復がまだみられず、不況である。
- （輸送用機械器具）・自動車メーカーからの組立受注が減少しており不況である。
- （プラスチック製品）・景況感是不況であり、休業している業者もある。
- （印刷業）・業界内のほとんどの会社が減収減益となっている。
- （百貨店）・4～5月に実施した休業の反動で6月以降来店客数が増加している。
- （スーパー）・食品スーパーは単籠もり需要の取り込みで好調を維持している。
- （商店街）・感染症の影響で不況であり、休業や廃業が増加している。
- （情報サービス業）・受注は回復してきたが、好況とまでは言えない。

### 【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・半導体製造装置関連の売上げは維持した。
- （電気機械器具）・売上げが増加した分採算性が良くなった。
- （食料品製造）・食品スーパー向け商品等は単籠もり需要があったものの、その需要も収まってきた。
- （金属製品）・半導体関連の状況は、年内は良好である。
- （百貨店）・お盆の外出自粛等により単籠もり需要が旺盛であり、食料品の売上げは好調であった。
- （建設業）・建売新築物件の販売が好調であり、売上高は前年同期比30%程度増加した。
- （旅行業）・受注の大幅減少と受注単価の低下もあり、採算性は悪化している。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・産業用機械等の受注回復時期は来春以降とみている。
- （輸送用機械器具）・良い方向に向かうが、売上高は前年同月比で減少するとみている。
- （電気機械器具）・先行きは悪い方向に向かい、売上げも減少するとみている。
- （食料品製造）・中食向けは生産量が増加しており、良い方向に向かうとみている。
- （スーパー）・感染症の状況によるところもありどちらとも言えない。
- （建設業）・感染症の動向次第であり、今後の見通しはどちらとも言えない。